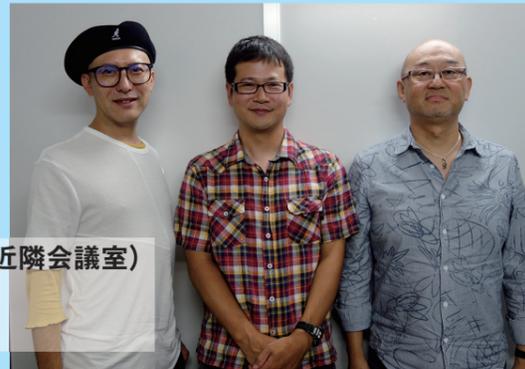


技能士社長!発見

第1回



座談会：2019年8月24日15:00～18:00(東京駅近隣会議室)
パネラー：近江賢介、竹内一人、高辻俊之
司会：高垣博 インタビュアー：浅野卓



高垣：本日はお暑い中そしてお忙しい中、技能士社長発見プロジェクトの座談会第1回にお集まりいただきましてまことにありがとうございました。

フランクにお話しただければと思います。よろしくお願ひします。

一同：よろしくお願ひします。

高垣：では、浅野副委員長の方から技能士社長発見プロジェクトに関して概要の方をご説明差し上げます。

浅野：みなさんこんにちは、浅野です。

私がこの技能士社長発見プロジェクトを企画した趣旨をまず最初にお話したいと思います。

技能士発見プロジェクトの趣旨は大きく二つあります。一つが技能士の出口、つまり技能士さんの活躍する姿を皆さんに見せていくということ。もう一つが技能士のプレゼンス向上になります。

もう少し具体的にお話ししますと、技能士の出口については、独占業務を持たない知財技能士が、企業に所属しないでどのように飯を食っているか、これを紹介することによって、技能士合格後のキャリアの可能性を提示するという事。

それから、知財技能士の他に、どのようなスキルとか資格を組み合わせれば、独立開業できるのかを紹介することによって、週末起業とかセカンドライフを考えてる人の受験を取りこもうということなんです。

知財技能士のプレゼンス向上については、この活動の成果として、毎回インタビューとそのインタビューについての紙面という形でまとめていきたいと思ひます。

そして、これが溜まっていくことによってですね、技能士社長による経営の実績を、①企業に対して、知財技能

士を雇う有用性をプレゼンする際の、②個人に対して、「知財技能士という資格で、ここまで社会で活躍できるんだ・しているんだ」とプレゼンする際の具体的な事例にさせていただけるだろうというふうに思っています。今日は初回ですので、一人一人のインタビューではなくて、特にコンテンツの業界で活躍されている方々を呼んで、座談会という形で始めていきたいと思ひます。

まず先に、今日お集まりいただいている方のお名前をご紹介します。まず近江さん。

近江：よろしくお願ひします。

浅野：それから高辻さん。

高辻：はいよろしくお願ひします。

浅野：それから竹内さんの3名です。

竹内：よろしくお願ひします。

浅野：ではさっそくおひと方ずつ、これまでの経歴をまとめたスライドを作って頂いてお願ひしますので、それをご紹介しながら、みなさんと話し合っていきたいなというふうに思ひます。

まず最初に近江さん、次に竹内さん、最後に高辻さんの順に進めたいと思ひます。

近江賢介プロフィール

浅野：近江賢介さんは一級知財技能士のコンテンツ、知的財産アナリストのコンテンツ、ビジネス著作権検定上級の資格をお持ちです。

2003年、有限会社ノイジックス、2009年、二つ目の会社であるノイジックス・エンタテインメント株式会社代表取締役にご就任。

ご自身のレーベルを持たれており、音楽プロデューサー、

有限会社ノイジックス代表取締役
ノイジックス・エンタテインメント株式会社代表取締役
一級知的財産管理技能士(コンテンツ)
知的財産アナリスト(コンテンツ)
ビジネス著作権検定(上級)

近江 賢介
OHMI Kensuke



作曲家、編曲家、ギタリスト、DJの顔もお持ちです。また2017年と2018年に文化庁実証事業であります、権利集約化等検討委員会の委員も務められました。

ELTさん、モンスターハンター、ヒーリング・ライブなど、人気アーティストやミュージシャンと仕事をさせていただきました、プレイングプロデューサーです。

特に近江さんはプレイングプロデューサーとしてずーっと一貫してキャリアを積み重ねてこられたので、そのへん特に注目していきたいなというふうに思ひます。

生み出した音楽を大事に育てたい

近江：僕は高校を出てすぐ音楽の専門学校に進みまして、順調にフリーランスで活動を開始することができました。

在学中から音楽を作る仕事をしておりましたが、仕事をする受け皿として法人化した方がやりやすいことが増えてきたので、そのタイミングで有限会社ノイジックスを立ち上げました。

この会社は、知財という観点でお話しすると、受託型のビジネスが多い。

ですので、権利という意味では自社に残っている物が少なかったんです。

でも、やっていくうちにだんだん欲が出てくる。“作って終わりじゃなくて、生み出した音楽を大事に育てたい”って気持ちが強くなってきて…。

2009年位かな？そのちょっと前ぐらいから、世界でも自分の音楽レーベルをアーティストが自ら立てるケースが非常に多くなってきた。特にヨーロッパやUKですね。

それで、自分でも是非やってみたいなって。

そこで、レーベル事業を開始すべくノイジックス・エンタテインメントという会社を立ち上げ、“miimu” “Mystic Floor” “Weekly Piano” をリリースしました。

今までクリエイターとして活動していたので、知財のハンドリングやビジネス的なテクニックが不足しているのを感じていました。

そこで、手っ取り早く叩き込もうと、まずは一般社団法人日本音楽出版社協会が実施している、音楽著作権管理者養成講座を受講しました。

この講座は音楽業界ではメジャーで、業界の皆さんはだいたい受講されているんです。これがとても面白くて、知財そのものに可能性を感じるきっかけになりましたね。知財をうまく使いまわせるというか、ビジネスとつなげることができれば、自分が思い描いているようなことができるんじゃないか？というような可能性を感じました。で、音楽以外の知財の基礎知識をつけるために、その後ビジネス著作権検定を受けました。

その流れで、ずっと気になっていた一級知的財産管理技能士という資格の勉強をして、2016年めでたく合格しました。

合格した時に届いた冊子に知財アナリストの資料がありまして、どちらかというと知財技能士の方は過去の判例とか知識の部分がメインな感じだったんですが、知財アナリストの方はもう少し応用するというか、よりビジネスに使っていくテクニックを網羅して教えてもらえるぞ！ということに興味をもちまして、こちらの方も受講

するという流れです。

今僕が手掛けているプロジェクト“ヒーリング・ライフ”やレーベル事業にすぐに役に立つ知識が欲しいというところが、一番大きな勉強をする動機ですね。

他には、音楽専門学校での講師や文教大学さんでの特別講義などで、若いクリエイターと知識や経験をシェアしています。

授業では、ただ作り方を教えるっていうだけじゃなくて、知財とクリエイティブをどう捉えるかというような観点で進めています。

これは今、クリエイターにとっても重要な目線なんじゃないかと思ってます。

自分のレーベル以外では、CM やゲーム音楽のプロデュースもしていますが、この中でもやはり知財の知識を手に入れてからのプロデュースと、それまでのプロデュースとでは、ガラッと変わってますね。

何が一番違うかという、それまでは、契約書が来たら基本にお金の交渉の部分ぐらいしか交渉する場所がなかった。知識がなくて。

でもそれだけだと、長い目でその音楽を見たときに、自分でコントロールできる部分がほとんどない。

生み出された大切な音楽をもっと大事に扱えるように契約を切り替えていきました。

僕以外のクリエイターを含め、プレイヤーさんや関わっているみんなの権利をしっかりと考えてやるような形にどんどん切り替わっていってますね。

ここが、僕が知財を勉強してからの一番大きな違いです。そういったことがきっかけで、2年前くらいから文化庁実証事業の委員にも参加させて頂いており、僕の持っているプレイングプロデューサーとしての知見を共有させて頂いたりしております。

時代と周りがくれたチャンス

高垣：どうもありがとうございましたー。

浅野：近江さんは最初から受託型のビジネスやられてたんですかね。

近江：そうですね。

浅野：近江さんは、もともとギタリストというか、つくる側、ミュージシャンの方ですよ。

近江：はい。

浅野：でも、最初から受託型のビジネスって、どういう関係でやられたんですか？

近江：もうそれは、周りの諸先輩方や仲間のおかげですね。

浅野：そこがすごく気になったんですよ実は。

知財技能士のコンテンツを持つてる人、あるいは知財アナリストのコンテンツを持つてる人って、自分自身がクリエイターって結構いるんですよ。

近江：ええ。

浅野：逆に、特許の技能士とか、特許のアナリストのひとって、自分は研究者じゃないんですよ。技能士と研究者がわりと分かれている、私の主観ですけどね。

コンテンツの業界って、管理する人っていうのかな、成果を使ってビジネスする人と、クリエイターがわりと近いというか、自分自身が両方兼ねてる人っていうのが多い。だから、どういうきっかけでそこに入ったのか、これが気になるわけですよ。

近江：なるほど。

浅野：それで今ね、近江さんは最初から受託型ビジネスって言ったけど、若いのに何で受託できるのかなって。

近江：僕は恵まれてるほうなのかもしれないですけど、周りにも同じような環境の人がいっぱいいましたね。

時代の後押しもあったと思います。デジタルへの移行期で。2000年前後は恵まれてたんじゃないでしょうか？



最初から大きな会社と直接契約が結べてたんです。

浅野：それはどうして。

近江：周りの方に紹介してもらったんです。

どこどこがコンテンツつくるからクリエイター探してるよって紹介してもらって。

浅野：2000年ということは、1990年代の終わりごろにDTMがちょっと盛り上がり、パソコンで音楽つくれる機材がだいぶ出てきた時代じゃないですか。

それまでって、ほんとにかなり高そうな専用の機械がないと出来なかったようなやつが、まあ高いっちゃ高いけど手を出せるようになった。

近江：そうですね。

浅野：そういう時代だから、クリエイターの入れ替え期っていうか、過渡期だったのかな。

近江：たぶんクリエイターが足りてなかったんだと思います。

運のいいことにその、当時 Mac で商業レベルの MIDI デー

タを完パケられるっていう方がそんなにいなかった。

いたかもしれないですけど業界のところまで声が届いていなかったんじゃないかなと。SNSもまだ無かったんで。

浅野：でも、それまでも、たとえばゲームとかあるじゃないですか。

ゲームの音源作ってる人っているわけですよ。

近江：ええ、いらっしゃいますね。

浅野：映画のBGM作ってる人もいっぱいいるじゃないですか。でも、足りなかった？

近江：多分、そっちはそっちで忙しい。

高垣：着メロとか、どうだったのですか？

近江：着メロはものすごいやりました。

高垣：全盛期ですよ。

近江：そうですね。

浅野：それから着うたとかになっちゃう。

近江：そうですね。

高垣：あー着メロね。そういう時代のときのね。

浅野：結構時代が味方したってことですかね。

近江：まあそうかなと思いますね。人には恵まれていたと思います。

高垣：運も才能の内と申し上げまして。

近江：でも運がよかったかなと。

僕はあんまり音楽を仕事にするっていう時に、こういう仕事がしたいっていう細かい目標とか考えが無かったんですよ。

だから、着メロの仕事も、当時「着メロなんて音楽じゃない」っていう方々もいらっしゃる中で、別にそういう風には思わなかった。

そういうところも結果的に良かったかなと。

浅野：着メロもね 使える音 全部使えるわけじゃないですもんね。

近江：そうですね。

浅野：和音もだいぶ後になってからですよ。

高垣：時代的には確かにその辺のビジネスが一気に増えた、21世紀に入って。

近江：そうですね。

コンテンツとしての音楽

近江：あとは知財の話で行くと、多分音楽のことをコンテンツと呼び始めたのが、このぐらいの時期だと思うんですよ。

多分それまでは皆「音楽」って普通に言ってたんですよ。

CDになっても媒体が変わっても。

だけど、着メロとか出てきた時に、iモードですよ、多分あれが出た時に、音楽のことも音楽って言わずに「コ

ンテンツ」と。

浅野：デジタルになったからですか？

近江：そうですね。

浅野：すこしこう芸術よりも商業になったのかな。

近江：うーん。そういうニュアンスまであったかどうかわからないんですけど、呼び方が一部変わったなど。

浅野：「コンテンツ」って言った時と、「音楽」って言った時で、意味合いとしては大きく違うんですか？

近江：僕の場合は、「音楽」といえばやはりその純然たる音楽で、ここから派生しているんな形に、たとえば着メロだとかカラオケだとかって、こういう風に二次的な利用は「コンテンツ」っていう気が、僕の中ではする。

浅野：なるほどね。二次創作みたいなね。

近江：そうですね。僕の感覚的にはそういう感じです。

資格取得後の変化

浅野：そうすると、結構ビジネスが広がりますよね、コンテンツのね。



たぶん、あとで竹内さんもお話しになると思うんだけど、技能士の取得前の契約と技能士取得後の契約で、少し視点が変わったよっていう話がありますか？

金の交渉だけだったのが、少し内容についても交渉できるようになったよとか。

それがどのくらい重要かというの合わせて教えて下さい。

近江：僕はプロデューサーにすごいなりたかったんです。例えば、ギターで参加すると、こんな感じに弾いてっていう、だいたい決まってるんですよ。だから創作の幅って割と限られてくる。そうじゃない現場も、もちろんあるんですけど。

でも僕は、やっぱりコントロールする側に憧れちゃったんですよ。

僕にとって音楽的な意味でセンスを一番出せるのがプロデューサーだったんです。

で、そのプロデュースをするっていうことに、知財のマ

ネジメントって直結してるとおもうておまして。
 例えば、一つの考え方なんですけど、今までなら予算の金額だけで諦めてしまうようなプロジェクトでも、お金が出せないのであれば、原盤権をこっち側でも持つよとか。そういう組み合わせのプロデュースができるようになるので、クリエイティブにダメージを与えず、その予算の中でできるようになるのかなと。

竹内: そうですね、選択肢が増えるという。

高遠: 完全に同意します。

近江: そうですね。やっぱりクリエイティブを犠牲にしたくないというのが僕もあるの。

今までだったら予算が下がれば、下手するとそのままクオリティが下がってしまうところを、いろんな選択肢の中で、なるべくダメージを与えずに。こちら側も単に「自分のところの痛みで良い物を作る根性論」じゃないところできるようになるのかなと。

浅野: それは他の分野の中でもありますね。

近江: そうですね。これはたぶん共通。



高垣: はいじゃあどうもありがとうございました。

近江: すいませんしゃべりすぎて。

浅野: これは話し足りなくなっちゃうね。

(つづく)

【司会：高垣博】

一級知的財産管理技能士（コンテンツ／ブランド）
 知的財産アナリスト（コンテンツ）

成蹊大学法学部政治学科卒業後、第一企画（株）入社。同社の（株）旭通信社との合併後、（株）アサツー ディ・ケイに引き続き勤務。入社以来、営業、メディア担当、タレントキャスティング、クリエイティブ・プロデューサーなどの職種を経て、2018年4月より、コンテンツ本部所属。

2019年1月、持株会社ADKホールディングス発足により、事業会社（株）ADKエモーションズ・コンテンツ事業本部にて現職。キャラクターの知財管理等に従事。

【インタビュー：浅野卓】

一級知的財産管理技能士（ブランド／特許／コンテンツ）
 知的財産アナリスト（特許／コンテンツ）

アグリ創研（株）代表取締役社長、浅野国際特許事務所附属研究所副所長。専門は知財戦略、ブランド戦略、事業モデル構築。

農林水産省国立研究開発法人審議会専門委員、特許庁地域団体商標普及啓発事業外部委員・座長、6次産業化プランナー（中央）、東京都立大学大学院非常勤講師を現任。著書に『ビジュアル知的財産マネジメント』『実践知的財産法』など。

【座談会出席広報委員】

高垣博（委員長）
 浅野卓（副委員長）
 宮原有可
 小鷲貴美子
 荒樋千穂

高垣委員長から
 技能士会の広報委員会は二年前から発足したんですけれどもまだちょっと暗中模索の中で何も成果を出せておらず、これを初めての成果とすべく広報委員会一同頑張っていきますので何卒ご協力のほどよろしくお願いします。

**技能士社長にインタビューしてみませんか？
 広報委員募集中！**

「知的財産管理技能検定」は知財マネジメントスキルを測る国家試験です

知的財産管理技能検定は、技能検定（働くうえで身につける、または必要とされる技能の習得レベルを評価する国家検定制度）の中の「知的財産管理」という職種に関する国家試験です。
 知的財産（知財）を管理（マネジメント）する技能（スキル）の習得レベルを測定・評価するものです。

「知財マネジメント」がビジネスの鍵！

IoT、人工知能（AI）、ビッグデータなど技術革新が目覚ましい進展により、今、世界経済は第4次産業革命の真っ只中にあり、産業構造が大きく変容しつつあります。また、人々の志向は「モノ消費」から「コト消費」へ、「所有・交換」から「共感・シェアリング」へと移りつつあり、ライフスタイルも大きく変化しています。

このような時代では、単に新しい製品やサービスを供給しても、世の中に広まることはありません。人々の複雑で多様化する潜在的なニーズを掘り起こし、様々な情報やコンテンツ、ユーザー目線でのデザイン、関連する技術などを融合し、共感を呼ぶ新しい価値としてブランディングすることが重要です。すなわち、技術をはじめ、コンテンツ・デザイン・ブランドといった「知的財産」をいかにマネジメントするかがビジネスの鍵となっています。

「誰に」、「どのような価値を」、「どのように提供し」、「どのように利益を出して継続していくか」という、企業等の新たな競争力の源泉となる「ビジネスモデル」を支えるのが「知財マネジメント」なのです。



「知財マネジメント」スキルはすべてのビジネスパーソンに求められています

ビジネスモデルを支える知財マネジメント。ビジネスをする上で、知財マネジメントに関するスキルを身につけることは必要不可欠です。

研究開発者・技術者、クリエイター、デザイナー、経営企画、販売営業等々といったビジネスモデルの創出に関わるすべてのビジネスパーソンにとって、知財マネジメントスキルはますます重要になってきています。

知的財産管理技能検定は「知財マネジメント」スキルを公的に証明します

知的財産管理技能検定は、知財マネジメントに関する技能の習得レベルを公的に証明するための国家試験です。合格者には「知的財産管理技能士」という国家資格が与えられます。

等級	選択作業	付与される国家資格
1級	特許専門業務	一級知的財産管理技能士（特許専門業務）
	コンテンツ専門業務	一級知的財産管理技能士（コンテンツ専門業務）
	ブランド専門業務	一級知的財産管理技能士（ブランド専門業務）
2級	管理業務	二級知的財産管理技能士（管理業務）
3級	管理業務	三級知的財産管理技能士（管理業務）